

2022年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	長谷川潔 1891-1980展 ―日常にひそむ神秘―			担当者名	担当課長兼学芸係長 滝沢恭司			
会期	2022年7月16日(土)～ 9月25日(日)			開催日数	62日間			
協賛・後援・協力	なし							
巡回館	なし							
展覧会概要	長谷川潔(1891～1980)は1910年代半ばに版画家として創作活動を開始、1918年に日本を去ってフランスへ渡って以来パリを拠点に活動した銅版画家。サロン・ドートンヌやフランス画家・版画家協会に所属して創作活動し、パリの画壇で高く評価された。現在は、日本でも版画史上きわめて重要な作家として位置づけられている。本展覧会は、国際版画美術館で収蔵する長谷川の作品と、長谷川が影響を受けた西洋の画家などの関連作品を合わせ、約165点を展示、全6章とコラム6コーナーで展示構成した。							
ねらい・対象	2018年度開催の長谷川潔展は、会期が短つたわりに多くの観覧者があった。本展は、その際に来館できなかった方を含め、さらに多くの方に長谷川潔作品の魅力を知っていただくことを目的に開催した。また、国際版画美術館で収蔵する長谷川潔作品のほぼ全てを展示することで、当館の収蔵品の豊かさをアピールするねらいがあった。長谷川の創作活動の背景や、作品の特徴を浮き上がらせることで、長谷川作品の豊かな精神性を感じていただくねらいもあった。							
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数			
	講演会	7月30日(土)	開催記念講演会	講師:猿渡紀代子氏(大佛次郎記念館特任研究員)	47			
	普及係:版画体験イベント	8月6日(土)、7日(日)	レース×プレス機でつくる版画	講師:常田泰由氏(版画家)	108			
	プロムナードコンサート	9月10日(土)	版画の神秘・音の神秘	桜美林大学芸術文化学群、玉川大学芸術学部	138			
	ギャラリートーク	7/17、8/21、9/4、18 全4回いずれも日曜日	担当学芸員による展示解説	担当学芸員	103			
	小中学生用鑑賞ワークシート配布	会期中	長谷川潔の版画をたんざく	-	2000枚			
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日				
	800 円	400 円	無料	・初日:7/16 ・シルバーデー(満65歳以上無料):7/27、8/24				
観覧者数 (現在)	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、65歳以上	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	5,572 人	1,833 人	7,405 人	6,563 人	- 人	329 人	513 人	0 人
	目標値			9,576 人				
主な収入 (現在)	観覧料収入		図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源			
	3,686 千円		— 千円	1,552 千円	— 千円			
事業経費	・報償費	105	千円					
	・事業業務委託料 作品額装委託料	481	千円					
	・作成委託料 展覧会ポスター等作成	484	千円					
	・製作委託料 ディスプレイ及び屋外看板作成委託料	499	千円	計 1,569千円 (+1,701)				
	・設置・撤去委託料(他の収蔵品による企画展、ミニ企画展などと年間契約)	(1,415)	千円					
	・広告・宣伝委託料(彫刻刀が刻む戦後日本展と共通契約)	(286)	千円					
主な広報・取材等の講評	NHK日曜美術館アートシーン(8月14日放送)／東京MXTV「私の芸術劇場」(9月23日放送、25日再放送)／読売新聞夕刊「ぎやうりいモール 時・静物画」(8月22日掲載)／朝日新聞「美の履歴書」(9月13日掲載)／ananweb「パリで絶賛! 仏で2つも勲章をもらった巨匠・長谷川潔の「ゾクゾクする版画」」(担当学芸員へのインタビューを中心に編集した記事)ウェブ掲載							
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)			
	342 件	4.6 %	20 %	54 %	企画の内容	展示作品	展示の仕方等	
					97.3 %	98.2 %	89.8 %	
	主なご意見	別紙のとおり。						

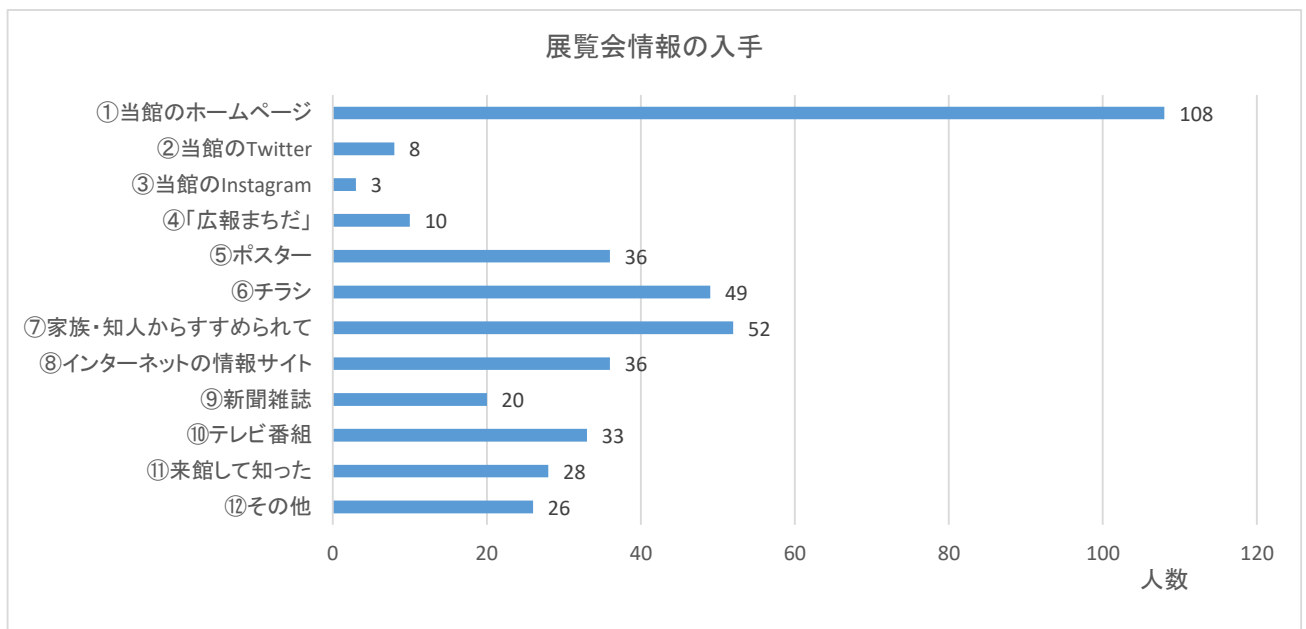
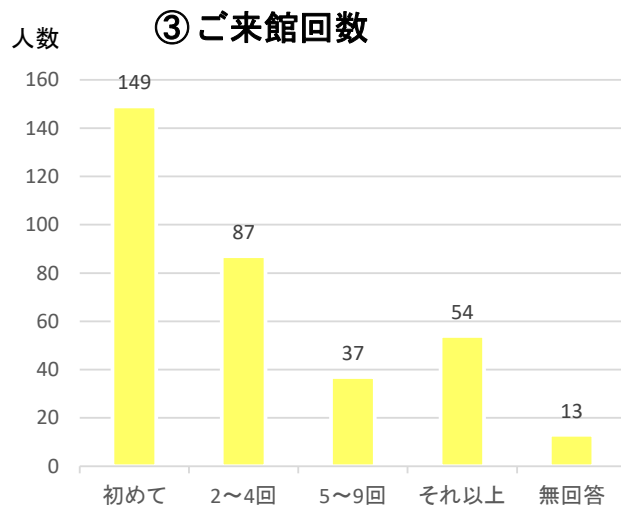
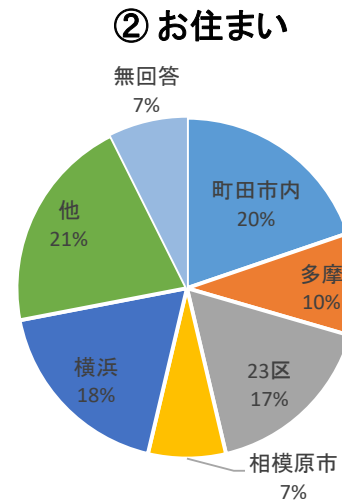
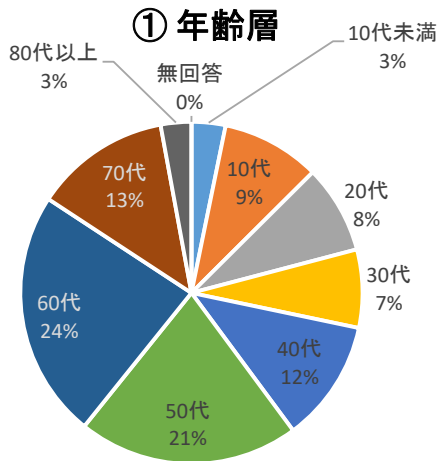
工夫と反省点と改善方法	予備調査	国際版画美術館収蔵の長谷川潔作品全てを再調査し、作品タイトル、サイズ、技法などを再確認した。特に仏訳『竹取物語』については、普通本と特別会員本の違いなどについて細かく調査した。ほか、長谷川潔の画集や関連単行本を調査し、作品理解に努めた。
	作品選択	国際版画美術館収蔵の長谷川潔作品を全て出品することを前提に展覧会を組み立てた。基本的に制作年代順の展示を構想し、「第Ⅰ章 日本時代 文芸雑誌『仮面』の画家 1913-1918」「第Ⅱ章 フランスで銅版画家として立つ 1919-1941」「第Ⅲ章 仏訳『竹取物語』1934(1933)」「第Ⅳ章 日常にひそむ神秘 1941-1950年代末」「第Ⅴ章 精神の高みへ 「マニエール・ノワール」の静物画 1950年代末～1969」「第Ⅵ章 エピローグ」の全6章と、「コラム1 『仮面』および日本版画倶楽部の版画仲間」「コラム2 萩原朔太郎詩集『月に吠える』への共感」「コラム3 青年時代の刺激」「コラム4 エングレーヴィングという超絶技巧」「コラム5 メゾチント技法の作品を比較する」「コラム6 フランスの友人画家」の6つのコラムで展示構成した。長谷川作品は制作年で章分けし、コラム出品の作品は、長谷川が刺激を受けた画家の作品や、長谷川の制作技法の特徴であるメゾチントとエングレーヴィングの関連作品を展示して比較対照できるようにした。なお、第Ⅰ章出品の『仮面』の一部は東京の個人より借用して展示した。
	図録作成	なし。A3二つ折りの出品リストを作成し(館内印刷)配布したほか、章解説、コラムの印刷物を希望者に配布した。また、リスト、章解説・コラム共に公式サイトに掲示して、ダウンロードできるようにした。
	ディスプレイ	章解説(計6枚)、コラム(計6枚)のパネル、他に代表作品35点程度の解説パネルを設置した。また、著作権継承者の承諾を得て、30点以上の出品作品を撮影可とし、随所に案内を設置した。展示で特に工夫したことは、挿絵本・仏訳『竹取物語』について、普通版と特別版の2種類を活用して、可能な限り多くの挿絵頁を展示し、さらに特別版に収められた別刷りなどの挿絵をできるだけ多く展示したことである。その際、別刷りの作品は額装展示し、それ以外はケース展示としたことで、ボリューム感のある展示コーナーになった。英文表示ができなかったことは反省点である。
	広報	ポスター800枚、ちらし30,000枚を作成して配布した。また、「彫刻刀が刻む戦後日本展」に続いて、専門の委託事業者がインターネット上に展覧会情報をアップし、登録メディアが情報を自由にダウンロードできるシステムであるオンライン・プレスリリースを発信した。この方法での広報は、現在のICTに適した手法であり、さまざまなWeb情報事業者が取り上げてくれた。また、ツイッターとインスタグラムに多く投稿し、展覧会の周知を図った。こうした広報の結果として、テレビ番組として、NHK日曜美術館の「アートシーンや東京MXテレビ「私の芸術劇場」で取り上げられた。また『朝日新聞』夕刊の「美の履歴書」で大きく取り上げられた。
	イベント	イベントとして、展覧会開幕直後に、長谷川潔研究の第一人者である猿渡紀代子氏(大佛次郎記念館特任研究員、元横浜美術館学芸員)に依頼して講演会を開催した。また、夏休みの期間中に、普及係により、子どもから大人までを対象者としたレース模様の図柄を刷る創作体験イベントとして「レース×プレス機でつくる版画」を実施した(講師は版画家の常田泰由氏)。そのほか、恒例となった桜美林大学と玉川大学の学生による演奏会をプロムナード・コンサートとして開催し、盛況であった。担当学芸員によるギャラリートークを全4回実施した。
	作品輸送	特になし。
	展示撤去	展示は7月13日から15日までの3日間、それぞれ4名・4名・3名のヤマト運輸専門作業員、ディスプレイ会社の商華堂スタッフとともに行った。展示作品数が多いことやケース展示が多かったこと、照明の微調整などで時間的に余裕はなく、展示最終日19:00頃に終了した。展示のレイアウトは、ほぼ計画通りにできた。撤収作業は9月27日に4名のヤマト運輸専門作業員と商華堂スタッフとともに行い、17:00頃には無事終了した。
その他特記事項	・小中学生用鑑賞ワークシート「長谷川潔の版画をたんさく」を無料配布し、鑑賞の手助けとした。	

「長谷川潔 1891-1980展 一日常にひそむ神秘」

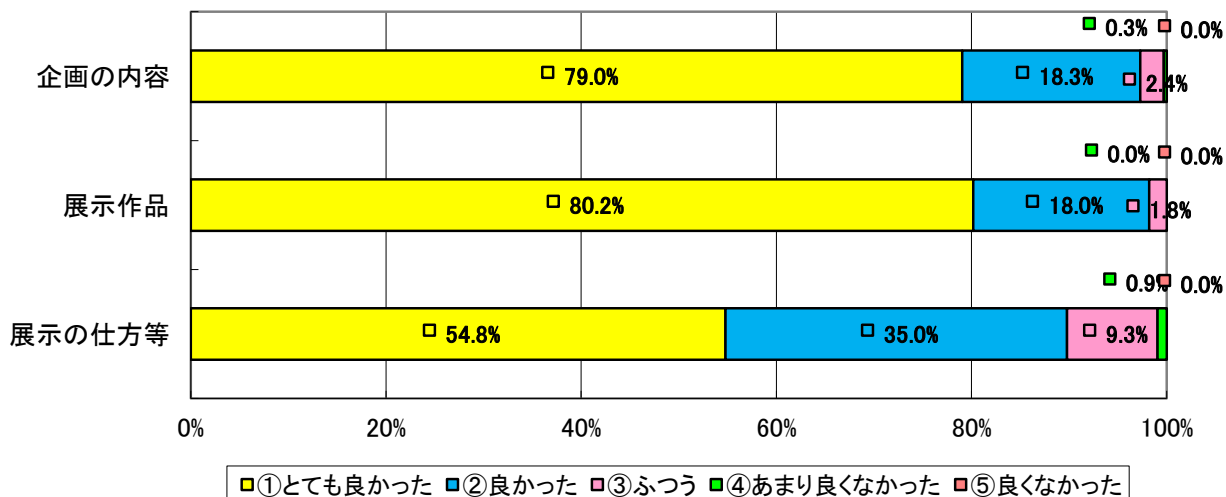
アンケート集計結果

開催期間：2022年7月16日（土）～9月25日（日）

回答者数： 342 人（総入館者数：7,405人 アンケート回収率： 4.6%）



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

◆企画の内容

- ・長谷川潔の作品をたくさん見ることができてたいへんうれしい。これからも取り上げてほしい。
- ・すばらしい企画をありがとう。いつも楽しい企画展を開催してくれてありがたい。もう一度見に来たい。
- ・初期から晩年までの作品展示が充実していた。面白かった。
- ・いろいろな国の作品や挿絵などが見られてよかった。思ったより楽しめた。
- ・横浜美術館で教育ボランティアをしている。長谷川潔について調べているので参考になった。
- ・展示構成、作品数、補足情報もすべて素晴らしく、遠路来たかいがあった。・制作年代順の展示がよかった。
- ・細かな技法の版画をたくさん見られ、料金以上の価値ある展覧会だった。
- ・素晴らしい展覧会で、日常を忘れて作品の世界に入り込むことができた。最高の時間を過ごすことができた。

◆展示作品

- ・長谷川潔作品に感動した。・ゆっくり名作と向き合う時間が持てた。
- ・エングレーヴィングやメゾチントが圧巻だった。貴重な企画展だった。
- ・長谷川の人生観も含めて面白く、作品も見ごたえがあった。
- ・見ているうちに引き込まれた。・とても素敵な作品ばかりで、楽しかった。
- ・散歩に来て立ち寄った。初めて知る版画家だが、作品に感動した。

◆展示の仕方やキャプション

- ・解説パネルが分かりやすく、他の画家との交流もわかってよかった。
- ・キャプションの文字の大きさなど少し工夫してほしい。
- ・写真撮影可の表示が分からない人がいた。・別の作品(撮影許可以外の作品)を撮影したかった。
- ・近くまで寄ってしっかり見られてよかった。
- ・銅版画の制作過程の展示があると作品がもっと理解できる。・技法展示などがあると良い。
- ・中学生も楽しめるワークシートがあり、とても分かりやすかった。
- ・解説文字がもう少し大きい方が読みやすい。細部までわかるように、拡大した展示があると良かった。
- ・コラム、キャプションがとてもよかった。より作品に近づけた気がする。
- ・『竹取物語』の写真可・不可が分かりづらかった。以降、集中できなかったのが残念。

◆その他、感想・要望など

- ・もっと他市への宣伝をしてほしい。・美術館までのインフォメーションをもっと増やしてほしい。
- ・写真撮影は禁止にしてほしい。・写真撮影ができるようにしていただき、ありがたい。
- ・図録は必ず発行してほしい。
- ・版画美術館大好きです。・美術館は市民の誇りです。・素晴らしい美術館で、また来たい。
- ・年間パスポートやペアチケットを販売してほしい。・入館料が高すぎず。市民割引、シルバー割引などがあるとよい。
- ・普段美術館にあまり行かないが、夏休みを利用して訪れ、作品の数も多くあり良かった。
- ・料金がリーズナブルで、スタッフの対応がとてもやさしく楽しい時間が過ごせた。